

卒業研究の評価方法

建築学科の卒業研究は論文系と設計系に分かれるため、評価方法を区分する。

(1) 論文系

中間発表(10%)、最終発表(10%)、論文(50%)、梗概(10%)、指導教員による口頭試問(10%)、研究態度(10%)を論文系の複数の指導教員で評価する。(括弧内は評価比率)

(2) 設計系

中間発表(10%)、最終発表(10%)、図面(50%)、梗概(10%)、指導教員による口頭試問(10%)、研究態度(10%)を設計系の複数の指導教員で評価する。(括弧内は評価比率)

(3) 口頭試問は中間発表前後2回に行う。

(4) 学生は、研究の取り組みを日誌に記録する。

1年建築製図

演習課題の評点(90%) + 授業態度(10%)

[各演習課題の評点内訳]

寸法の正確さ(30%)

丁寧さ(文字数字含む)(40%)

線の質や濃淡(20%)

提出期限(10%)

※1 全演習課題の提出をもって合格点とする。

※2 演習毎のボリュームや期間を考慮して、評点に重み付けをする。

2年建築設計演習

(1) 通年で前期、後期1課題ずつ、計2課題を課し検印を受けた原図の青焼き図面の提出をもって合格とする。なお、未提出図面がある場合は59点以下の不合格とする。

(2) 点数配分は前期40%、後期60%の傾斜配分とする。

(3) 各課題の評価基準は下記の通り。

<前期>

建築図面の意味と役割が理解でき、正確な作図ができているか(10%)

線種の意味が理解でき、かつ適切な使い分けができているか(10%)

図面内のレイアウトが適切で丁寧な作図ができているか(10%)

授業態度が良好で提出期限なども守られているか(10%)

<後期>

課題の条件を十分理解し、問題解決のための提案に至っているか(10%)

住宅設計の基本を理解し、設計に生かしているか(10%)

線種の意味が理解でき、かつ適切な使い分けができているか(10%)

建築図面の意味と役割が理解でき、的確な図面表現ができているか(10%)

図面内のレイアウトが適切で丁寧な作図ができているか(10%)

授業態度が良好で提出期限なども守られているか(10%)

3年建築設計演習

- (1) 複数課題の取り組みを評価する。1課題でも未提出の場合は59点以下の不合格。
- (2) 複数課題の評価割合は、取り組み時間で決定する。
- (3) 1課題の評価基準は
 1. 課題の条件理解、(10%)
 2. 問題解決のための提案、コンセプト(10%)
 3. 正確な図面表現、(20%)
 4. 図面のプレゼンテーション(提案を伝達する最適な表現)(20%)
 5. 図面への描き込み、密度(20%)
 6. 課題への取り組み姿勢、提出期限(20%)

4年建築設計演習

- (1) 複数課題の取り組みを評価する。1課題でも未提出の場合は59点以下の不合格。
- (2) 複数課題の評価割合は、取り組み時間で決定する。
- (3) 1課題の評価基準は
 - 課題の条件理解、問題解決のための提案、コンセプト(20%)
 - 正確な図面表現、プレゼンテーション(20%)
 - 図面への描き込み、密度(20%)
 - 提案建築のデザイン性(20%)
 - 課題への取り組み姿勢、提出期限(0%~20%)
- (4) 提出期限を厳守しない場合は、取り組み姿勢、提出期限の割合を0%まで下げることがある。(最高点80点とする。)

5年建築設計演習

- (1) 半期で3課題を課し検印を受けた原図のコピーまたは青焼き図面の提出をもって合格とする。なお、未提出図面がある場合は59点以下の不合格とする。
- (2) 全体評価における各課題の評価配分は、それぞれの取り組み時間により算定する。
- (3) 各課題の評価基準は下記の通り。
 - 課題の条件を十分理解し、問題解決のための提案に至っているか(20%)
 - 住宅設計の基本を理解し、設計に生かしているか(20%)
 - 線種の意味が理解でき、かつ適切な使い分けができていないか(10%)
 - 建築図面の意味と役割が理解でき、的確な図面表現ができていないか(10%)
 - 図面内のレイアウトが適切で丁寧な作図ができていないか(10%)
 - 図面の書き込み密度は十分であるか(10%)
 - 授業態度が良好で提出期限なども守られているか(20%)

建築工学実験

各実験毎のレポート点の合計(90%) + 授業態度(10%)

[レポート評価の内訳]

- 期限内に提出されている。(20%)
- 提出すべき必要な資料、各項目の書き込みが揃っている。(20%)
- 結果の表現が工夫されている(図表などが見やすく、丁寧である)。(20%)
- 定量的な考察(比較)がある。(20%)
- 他の授業での知識、参考文献などに基づいて深い考察を加えている(20%)。

- ※1 未提出は0点、不参加(欠席)実験のレポート提出は認めない。
- ※2 実験毎のボリュームや期間を考慮して、各レポート評点に重み付けをする。

建築総合演習

- この科目は、4教官(4テーマ)による実習、実験を行うものである。
- (1) テーマごとのレポート(90%)、授業態度(10%)等を評価し、最終的に全テーマの総合点で評価する。
 - (2) レポートの評価基準は
 - 提出期限(20%)
 - 必要記載事項の書き込み(20%)
 - プレゼンテーション(見やすさ、適切な図表表現など)(30%)
 - 考察(他の科目の知識、文献に基づく深い考察を含む)(30%)ただし、グループでの提出物があるテーマの場合は、グループ評価10%を加点調整する。
 - (4) 1テーマでもレポートが未提出の場合は59点以下の不合格とする。

図学

- (1) 定期試験 50%
 - (2) 講義中に行う作図課題、宿題 50%
- 試験と作図課題を合わせた総合点が60点以上の場合合格とする。

○定期試験 50%(中間 25% 期末 25%)

○講義における課題(宿題も合わせて20課題程度) 50%
1課題10点満点で採点する。
(作図が正しいか、丁寧に作図されているか)
(提出期限に遅れた場合は、減点とする)

課題は基本的にすべて提出する。

欠席の場合でも、後日提出(提出期限については相談により決める)
提出がない場合は、その分、点数の加点をしない。